

撚糸工連ニュース

2013年1月発行 第38号

発行：日本撚糸工業組合連合会
〒102-0075
東京都千代田区三番町 20 - 1
TEL 03 (5275) 1071
FAX 03 (5275) 1080
<http://www.nenshi.or.jp/>
E-mail:info@nenshi.or.jp

◆年頭のごあいさつ

平成25年(2013年)1月
日本撚糸工業組合連合会
理事長 北場利美

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

旧年中は格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、顧みますと、昨年尖閣諸島・竹島の領土問題を起因とする中国、韓国との関係悪化、欧州債務危機、新興国経済の減速等日本を取り巻く環境は大変厳しいものとなりました。

こうした中、撚糸業界も前半は、比較的堅調に推移したものの、9月以降徐々に先行き不透明な状況となりました。

今後、TPP交渉の行方、さらには電力料金の値上げ等、業界を取り巻く環境は厳しい状況が見込まれますが、このような状況を打破するためにも、連合会・産地組合での意見交換を活発化し、業界内の結束力を強める必要があると考えております。

年頭にあたり、決意も新たに、業界の活性化のため全力を尽くしてまいりたいと存じますので、皆様方より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、関係各位のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

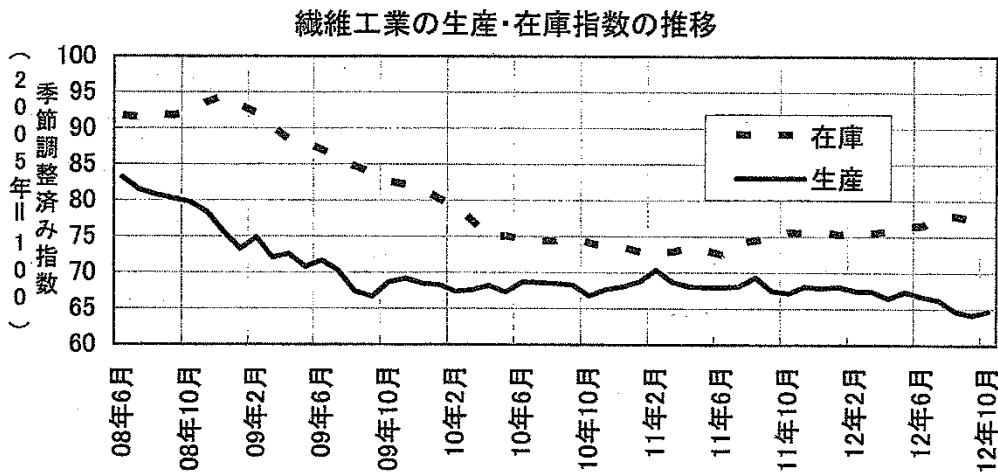
◆日本の繊維産業の現況について

昨年12月19日に日本繊維産業連盟常任委員会が開催され、「日本の繊維産業の現況について」以下のとおり報告がありました。

日本の繊維産業の現況について

I. 景況全般について

繊維産業の各種指標は、悪化しつつある。昨年は東日本大震災の影響があったものの、繊維産業への直接被害は限定的であり、むしろ復興需要にも支えられ一昨年比改善の指標が多く見られたが、今年に入ってから主な生産・貿易指標の前年対比マイナスが続いる。特に後半にかけて特に貿易収支の赤字が大きくなっており、足下の状況は震災後の昨年よりも厳しい状況である。長期化する円高の影響に加えて中国経済の減速、日中間の政情問題など先行きの懸念も強まっている。



II. 各種指標に関して

1. 主要生産指標

- (1) 主要繊維の生産量は、震災があった昨年よりもむしろ悪化している品種が多い。
- ① 化学繊維の2012年7～10月生産量は、昨年同期比94.6%、2010年同期比では96.7%。
 - ② 綿糸の2012年7～10月生産量は、昨年同期比93.2%、2010年同期比では82.1%。
 - ③ 毛糸の2012年7～10月生産量は、昨年同期比102%、2010年同期比では105.5%。
- (2) テキスタイルの生産量 (m²、重量) は、昨年対比では回復も、リーマンショック前には程遠い水準。合繊維物等は細物化により稼働率は向上。

- ① 織物の2012年7～10月生産量は昨年同期比93.2%。
 - (a) 合繊織物：昨年同期比93.2%。
 - (b) 綿織物：昨年同期比100.7%。
- ② ニット生地の2012年7～10月生産量は、昨年同期比99.8%、
2010年同期比では93.7%。
- ③ 染色整理高に関しては2012年7～10月は、昨年同期比94.3%、
2010年同期比では93.2%。

2. 主要貿易指標

- (1) 輸出入ともリーマンショック以降は2009～2011年まで回復機
基調であったが、今年に入って頭打ち、特に輸出は前年対比マイナス(円
ベース)となっており、4月以降この傾向が顕著。

【2012年7～10月の繊維貿易】

＜輸出＞円ベース	258,396百万円(前年対比 95.0%)
	(2010年対比98.0%)
\$ベース	3,282百万\$(前年対比 93.7%)
＜輸入＞円ベース	1,303,560百万円(前年対比100.4%)
	(2010年対比117.9%)
\$ベース	16,567百万\$(前年対比 98.8%)

- (2) 今年7～10月の国別輸出(円ベース)は、昨年対比で、ASEAN
向けがベトナム102%、インドネシア106.6%など、依然拡大
基調。中国・韓国・台湾向けはいずれも減少。EU向けは昨年対比8
8.1%と大幅減。
- (3) 今年7～10月の国別輸入(円ベース)は、昨年対比、ベトナムから1
14.6%、マレーシアから102%、インドネシアから116%と増
加が続くものの、増加幅は鈍化。中国から98.7%、台湾から90.
4%、韓国から93.1%と、減少傾向。

3. 主要消費指標

- (1) 家計調査消費支出、衣料品の店頭売り上げ指標共に、昨年後半から前年
対比横這い乃至プラスの状態が続いていたが、4～5月にかけてマイナ
スに転じ、10月までは前年対比減少基調継続。
- (2) SPA売上高は4～5月の落ち込みからはやや回復し、前年並みの水準。

4. その他関連指標

- (1) 自動車国内生産は、昨年後半から前年同月比プラスが続いていたが、
4月をピークに減少が続き、9月からは前年同月比マイナスに転じた。
- (2) 1月～10月の新規住宅着工戸数は、7、8月に昨年対比大幅マイナス
となった他は概ねプラスを維持している。 以上

◆ 日本撚糸工業組合連合会第40回通常総会について

平成24年11月25日（日）、石川県加賀市において日本撚糸工業組連合会第40回通常総会が開催され、第39期事業報告、決算報告、第40期事業計画、予算等が承認されました。また、理事1名増員が承認され、新たに高橋賢一氏（青年協議会会長）が選任されました。

◆ 第48回日本撚糸青年協議会全国大会の開催について

来る2月16日（土）、広島ガーデンパレス（広島県広島市）におきまして日本撚糸青年協議会の全国大会が開催されます。今回は、税理士法人麩城総合経営事務所 代表社員（税理士）林 秀樹氏を講師に招き、講演会を行い、終了後全体会議（記念式典）を行う予定となっています。

また、当連合会との共催で開催いたしますので、青年会のない産地の皆様にも是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、参加対象者は、当連合会会員組合の組合員及び賛助会員の方となります。

謹 賀 新 年

日本撚糸工業組合連合会

理事長 北場利美

役員一同

